

(海外)・国内) 出張報告書 (学生用)

2015 年 9 月 24 日提出

氏名	佐藤 匡浩
所属	人獣共通感染症リサーチセンター 国際疫学部門
学年	博士課程 1 年
出張先	モンゴル国 Ugi nuur 周辺
出張期間	2015 年 8 月 27 日～2015 年 9 月 6 日
目的	野生水禽における鳥インフルエンザウイルス保有状況の調査

活動内容 (2,000 字程度、活動内容が判る様な写真や図表を加えて下さい)

高病原性鳥インフルエンザ (HPAI) は鶏に対し、非常に高い致死率を示す全身急性感染症であり、経済的な打撃が大きいことから獣医学領域において重要な疾病である。HPAI は H5 および H7 亜型の高病原性鳥インフルエンザウイルス (HPAIV) によって引き起こされ、近年日本を含むアジア諸国において H5 亜型 HPAIV による HPAI の発生が多数報告されている。HPAI の制圧は摘発淘汰が基本であるが、何ヶ国かの不適切なワクチン接種によりウイルスが鶏群内に常在してしまっているのが現状である。2010-2011 年に日本および韓国で発生した HPAI は、野生水禽の南下に伴い増加、拡大した (Sakoda et al, J Gen Virol, 2012)。日本で分離されたウイルス株は 2009-2010 年にモンゴル国で分離されたウイルス株と非常に近縁であり、今後も野生水禽によって HPAIV が拡散する可能性が高い。野生水禽内でのウイルス保有状況を調べることは、未然に HPAI の発生を抑えるために有益な情報をもたらすと考えられる。本出張は、北方圏と東・東南アジア間の野生水禽の渡りルート上にあるモンゴル国において湖沼を調査し、野生水禽内における鳥インフルエンザウイルス保有状況を調べる定期サーベイランスの一環である。

2015 年度は人獣共通感染症リサーチセンター・高田礼人教授、同博士課程 1 年・近藤達成および獣医学研究科・微生物学教室・松野啓太講師と私の 4 名が参加した。サンプリングならびに現地滞在に必要な物資の多くは日本で準備し、携行した。以下、行程を記述する。

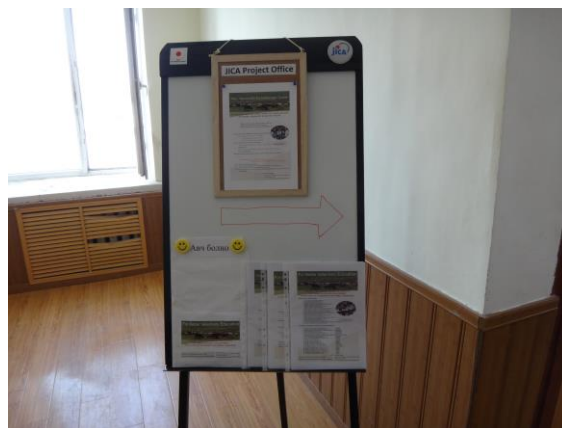
[8 月 27 日]

新千歳空港から仁川国際空港を経由しチンギスハーン国際空港に移動し、モンゴル国に入国した。空港にて通訳の山本千夏さんと合流した。

[8 月 28 日]

State Central Veterinary Laboratory を訪問し、今年の計画を説明した。加えて、

モンゴル国立農業大学内にある JICA の獣医・畜産分野人材育成能力強化プロジェクトの事務所を訪問した。また、ウランバートル市内において食料品等の物資を買い揃えた。



[8月29日]

サンプリングに出発。日本からの参加者4名と通訳1名に加え、ドライバー2名と State Central Veterinary Laboratory のスタッフ1名の計8名でウランバートルを出発した。夕刻 Ugii nuur に到着。近くにある Tsagaan nuur にてサンプリングを行い、34個のサンプルを採取。宿泊は Ugii tourist camp のゲル。



[8月30日]

Ugii nuur 周辺に位置する Doitiin nuur ならびに Alag zegstei nuur にてサンプリング。Doitiin nuur で209個、Alag zegstei nuur で139個のサンプルを採取。移動は昨年記録された GPS 座標を基に行った。湖の状態は昨年よりも湖の水量が多いとのことであった。宿泊は前日と同じ Ugii tourist camp のゲル。

[8月31日]

Ugii nuur から移動し、Tsagaan nuur、Khunt nuur、Khunt rasshaarn nuur にてサンプリングを行う。Tsagaan nuur で31個、Khunt nuur で347個、Khunt

rasshaarn nuur で 42 個のサンプルを採取。宿泊は、Khunt rasshaarn nuur の保養所の小屋。夕食時にモンゴル人参加者に羊肉を使ったモンゴル料理のホルホグを作っていた。



[9 月 1 日]

Khunt rasshaarn nuur の保養所から移動し、Durren nuur でサンプリングを行い、197 個のサンプルを採取。これにて 1,000 個のサンプリングを達成する。宿泊はバイヤンアクト保養所の小屋。

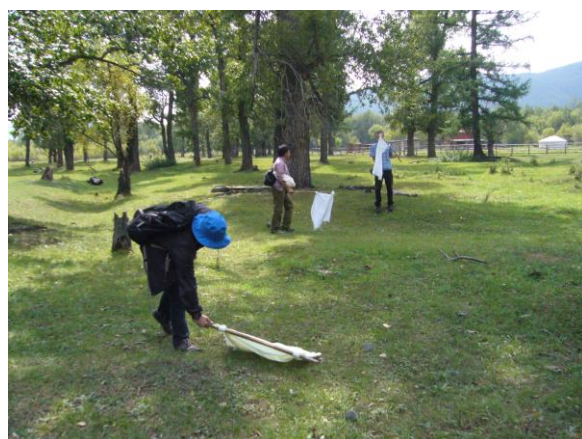


[9 月 2 日]

前日にサンプリングが終了したのでエルデネットを経由してウランバートルに帰還した。

[9 月 3 日]

ウランバートル郊外にある Terelj National Park 内で、松野講師指導の下、マダニのサンプリングを行い、3 匹を収集した。



[9月4日]

モンゴル国立農業大学と State Central Veterinary Laboratory を訪問した。午後、State Central Veterinary Laboratory の所長の送別会に招待され、山羊肉のホルホグをご馳走になった。

[9月5日]

予備日。サンプルや携行品の整理と荷造りをし、深夜の便でチンギスハーン国際空港からモンゴル国を出国。

[9月6日]

仁川国際空港経由で新千歳空港に帰国。

採取日		場所	サンプル No.			採取数
2015.8.29 Sat	PM	Tsagaan nuur	1	～	34	34
2015.8.30 Sun	AM	Doitiin tsagaan nuur	35	～	69	35
	PM	Doitiin tsagaan nuur	70	～	243	174
	PM	Alag zegstei nuur	244	～	382	139
2015.8.31 Mon	AM	Tsagaan nuur	383	～	413	31
	PM	Khunt nuur	414	～	760	347
		Khunt rasshaarn nuur	761	～	802	42
2015.9.1 Tue	PM	Durrun nurr	803	～	1000	198

表 1. サンプルング場所とサンプル数

今回のモンゴルへの出張は、野生水禽におけるインフルエンザウイルスの疫学調査のみならず、モンゴルの文化に触れる機会もあり、獣医師としても国際人としても非常に有益な経験をする機会であった。加えて、疾病調査における国際的な協力関係の重要性を認識するいい機会になった。帰国後のサンプル解析の結果、採取したサンプ

ルの概ね 5%からウイルスが分離された。

指導教員確認欄	所属・職・氏名： 人獣共通感染症リサーチセンター・国際疫学部門・教授 高田 礼人 印
---------	---

※1 電子媒体を e-mail で国際連携推進室・リーディング大学院担当に提出するとともに、指導教員が押印した原本を国際連携推進室・リーディング大学院担当に提出して下さい。

提出先：国際連携推進室・リーディング大学院担当

内線：9545 e-mail: leading@vetmed.hokudai.ac.jp